

救急医療と病診連携 広報げろ 2007.6

救急医療と病診連携

病診連携というのは病院と医院や診療所が協力して診療に当たることを言います。今回は救急医療において病院と病院や医院との連携が大変重要だというお話です。

病院にやってくる救急患者で担当医を悩ませるのは患者情報がまったくない初診患者です。一刻も早い処置が必要な場合、患者の過去の病状や治療歴は大変重要です。普段は他の病院や医院で治療を受けそこに通院していても急変すれば最寄の救急病院に運ばれます。急変に備えて最寄の救急病院を一度は受診し、かかっている病院や医院からの紹介状や治療歴などを届けておいていただきますといざというとき大変助かります。

病院が患者をより専門的な治療を行える病院に救急車で搬送する場合その病院の医師が救急車に同乗しなければなりません。当然病院にはもう一人留守番をする医師が必要です。市立病院では最近の医師不足のため今後留守番できる医師の確保が困難になることが考えられます。そのため今後このような場合、市内で開業しておられる先生に病院の留守番をお願いすることとなりました。まさに病診連携です。皆様のご理解をよろしく願いいたします。市立病院ではこれを機会に病院をオープン化し入院設備を持たない医院の先生方に入院ベッドを提供していこうと考えています。

金山病院と下呂温泉病院は最も重要な病病連携を行っているといえるでしょう。両病院とも、地域で安心して暮らせるために救急病院としてなくてはならないものですが、金山病院が有効に機能するためには心筋梗塞や脳卒中のより専門的治療を行える病院としての下呂温泉病院の存在は欠くことのできないものとなっています。

このたび下呂市が開設することとなった休日診療所も病診連携のよい形でしょう。下呂温泉病院への時間外受診を減らし同病院の専門医療体制を守ることは地域住民にとってはもちろん医院や診療所が責任を持ってかかりつけ医としての職務を果たすことができるためにも大変重要です。

医師不足と地域の医師の高齢化が進む中、各医療施設の特長を生かし連携することは地域の医療資源を守り皆さんの健康を守るためにも大きな効果があると考えます。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦